

よしかわICT教育通信

発行：R4.8 吉川市教育委員会 ☎984-3564（学校教育課）

Vol. 13

ICTとは、Information and Communication Technology、つまり「情報通信技術」を意味します。ICT教育は、教育現場で活用される情報通信技術そのものや、取り組みの総称です。

プレゼン力養成講座がスタートしました！



今年2年目となるプレゼン力養成講座がスタートしました。希望して集まった児童生徒18名は、全7回の講座を受講した後、10月1日（土）に市民交流センターおあしすで開催されるプレゼンテーション大会に臨みます。

今年は「私たちの郷土 よしかわ」を題に自分たちでテーマを決め、構想を練り、発表のスライドを作り上げていきます。

講師は吉川市特任教育支援員の大西久雄先生。講義では「調べたことを発表するなら誰がやっても一緒。最後は自分なりの考え、意見を伝えられるようにしましょう。」といった話や、画面の色合い・文字の大きさ・言葉の表現などの指導をいただいています。

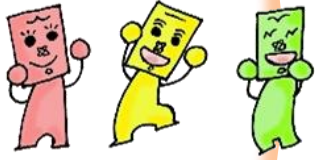
講座は5回目まで終了し、子どもたちは発表の材料を集めに市役所を始め様々な場所へ足を運んで取材を行い、発表スライドの作成に一生懸命取り組んでいるところです。

「相手意識」や「目的意識」を持った分かりやすく効果的なプレゼンテーションを作成し発表することを通じて、子どもたちの情報活用能力や自己肯定感、非認知能力を伸ばしていけるよう、今後も様々な取り組みを行ってまいります。

ICT 術

いつも ちゃんと つかおう

じゅつ



第13回 自分の思いや考えを しっかり発信する道具 としての ICT



吉川市では、昨年度からタブレットを活用した児童生徒のプレゼン力養成講座を展開し、発表の機会としてプレゼン大会も実施しています。

今年度も夏休みから実施し、10月の大会に向けて準備を進めています。

この講座で驚くことがあるのです。
参加している子どもたちのタブレットやソフトを扱う能力が昨年度より格段にアップしているのです。そして、プレゼンテーションで伝えたいという熱い思いと意欲の高さです。

これは何を意味しているのでしょうか？



端末を使った「ショーアンドテル」先生たちの研修会でも紹介しています。

体験とトレーニング

ムーブノート
を活用した
インクルーシブ
Show
& Tell
ICT活用
自己肯定感

自分の好きなもの・得意なこと等のプレゼンテーション
自己表現、相互承認、他者理解・尊重、情報活用編集力

欧米では、幼稚園の頃から「ショーアンドテル」という表現活動を実施しています。自分の好きなモノ、得意なコト等実物持参で、披露しプレゼンする活動です。

子どもたちはそうした体験を積み、自ずと自分の思いや考えを表現するトレーニングをしていくこととなります。

学習端末のタブレットは、授業で一斉に使うことが中心ではありません。

しかし、手段、条件、内容等々、自分自身の都合やアイデアでICT端末を使っていく「道具立て」という考え方も大事なことです。自分にとって一番役立つ使い方を自分の頭で考え、判断し、使う機会をつくることです。市が進めているデジタル・シティズンシップともつながるものです。今年度の講座参加者がスイスイと端末を使えるのも日頃学校や家庭での「道具立て」の着実な成果なのです。家庭にも持ち帰る意味も実はここにあるのです。自分の判断で日常使いができる力、これからさらに必要となります。